

# 取扱説明書

ステンレス製携帯用まほうびん 品番 :SNC2W-22NT

各部の名前  
ご使用前に、各部品がそろっていることを確認してください。

## キャップユニット 保冷専用



実容量：中栓使用時 620mL  
キャップユニット使用時 670mL



専用  
ハンディポーチ

このたびは、当社のステンレス製携帯用まほうびんをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
ご使用前に、この取組書を最後まで必ずお読みいただき、正しく安全にご使用いただけますようお願いいたします。  
また、本書は、万一ご使用中にわからなくなった時、お役に立ちますので、いつでもみられるところに、大切に保管してください。

## 中栓・コップユニット 保温・保冷両用



本体  
底

## 安全上のご注意 必ずお守りください

### 警告

キャップユニットのご使用時

●保冷専用です。熱いものは絶対に入れないでください。(やけどの原因となります。)

中栓・コップのご使用時

●直接飲まずに必ずコップを使用してください。(やけどやものを汚す原因となります。)

●傾けた状態、または顔を近づけた状態で中栓のフタをあけないでください。

(飲み物が急激にでたり飛散してやけどの原因となります。)

●熱いものを入れた直後は本体を振らないでください。

(内圧がかかり、内容物が吹き出る恐れがあります。)

### 警告

●幼児の手の届く場所には置かないでください。またいたずらには注意してください。

●絶対に修理・分解・改造は行わないでください。(故障や事故の原因となります。)

●ストーブやコンロなど火気のそばに近づけないでください。

(変形や変色、火災の原因となります。)

●電子レンジで加熱しないでください。(ケガや事故・故障の原因となります。)

●冷凍庫に入れないでください。(飲み物が漏れたり、故障や事故の原因となります。)

●飲み物を入れて持ち運ぶ際は、コップ又はキャップユニットを上にした状態で移動してください。

(横に倒したままの移動は飲み物が漏れ、ものを汚す原因となります。)

●運転中は使用しないでください。

●キャップユニット・中栓・コップを持って持ち運びをしないでください。

(故障や事故の原因となります。)

●バッグなどに入れる場合は、必ず濡れないことを確認した上で本体を縦置きにしてください。

また、携帯電話・カメラなどの精密機器は、絶対にポトルと一緒に入れないでください。

●飲み物の量は、口金の下の位置までにしてください。

(入れすぎると閉めるときにあふれて、ものを汚す原因となります。)

●ハンディポーチのグリップやショルダーヒモを持って振り回さないでください。

(故障や事故の原因となります。また過度の荷重がかかるとショルダーヒモが外れる恐れがあります)

●小さなお子様やハンディポーチのショルダーヒモを首からかけずに両手からなめ掛けしてください。

●ハンディポーチのショルダーヒモをかけた状態で、運動したり、遊んだりしないでください。

●倒したり、落としたり、ぶついたり、製品に強い振動、衝撃を与えないでください。

(製品が破損する恐れがあります。)

●飲み物を入れた状態で長時間放置しないでください。(腐敗や変質の原因となります。)

●お茶などはお早めにお飲みください。(長時間保存するとお茶の色や味が変わります。)

●お茶・コーヒー・ジュースなどを入れて使用した後は必ずお手入れをしてください。

(匂い移りする場合があります。)

●大きな水を入れる場合は押し込まず小さく砕いてお入れください。(キズや漏れの原因となります。)

●アルコール類は入れないでください。

●次のものは絶対に入れないでください。

※ドライアイスや炭酸飲料等。(内圧がかかり、内容物が吹き出る恐れがあります。)

※牛乳・乳製品・果汁等。(腐敗や変質の恐れがあります。)

※味噌汁・スープ等の塩分を含んだもの。(サビの恐れがあります。)

※果肉・お茶の葉等。(つまる、漏れるなどの原因となる恐れがあります。)

### 注意

- 直射日光のあたる場所、自動車のトランク内など高温になる場所に放置しないでください。(保温・保冷効果が落ちる原因となります。)
- 煮沸はしないでください。(熱により変形し、漏れてやけどやものを汚す原因となります。)
- 食器洗浄機・食器乾燥機は使用しないでください。(熱により変形し、漏れてやけどやものを汚す原因となります。)
- 本体の湯け置き洗いはしないでください。(すきまに水が浸入して、漏れてものを汚したり、サビや保温・保冷不良の原因となります。)
- シンナー・ベンジン・金属たわし・磨き粉・さらし粉・クレンザーは使用しないでください。(キズやサビなどの原因となります。)
- 塩素系漂白剤は使用しないでください。(サビや故障の原因となります。)
- バックキンはお手入れ後必ず取り付けてください。(正しく取り付けがされていないと内容物が漏れる恐れがあります。)
- 長期間使わないときは、十分に汚れを落とし、乾燥させ、湿気の少ない場所に保管してください。

お手入れ方法  
使用後は、必ずその日のうちにお手入れしてください。  
お手入れするときは、柔らかいスポンジで行ってください。

- 本体(外側・内側)のお手入れ  
本体は食器用洗剤を薄めたぬるま湯で柔らかいスポンジで洗った後、水洗いしてください。  
水分を拭き取り、十分に乾燥させてください。
- キャップユニット・中栓・コップ  
キャップユニット・中栓・コップは丸洗いでできます。スポンジで洗った後、水洗いしてください。  
水分を拭き取り、十分に乾燥させてください。
- バックキン  
バックキンを取り外し、ぬるま湯で丸洗いし、乾いた布で水分を拭き取ってください。
- ハンディポーチ  
水または30度以下のぬるま湯で軽く手洗いで、十分に乾燥させてください。

### お手入れ上の注意

- 本体を洗ったあとは、すぐに水分を拭き取ってください。(水滴などが残ったり、サビやものを汚す原因となります。)
- シンナー・ベンジン・金属たわし・磨き粉・さらし粉・クレンザーは使用しないでください。(キズやサビなどの原因となります。)
- 本体やキャップユニット、中栓・コップの煮沸、及び食器洗浄機や食器乾燥機等は使用しないでください。(変形や漏れの原因となります。)
- 塩素系漂白剤は使用しないでください。(サビ、故障の原因となります。)
- 本体やキャップユニット、中栓は湯け置き洗いはしないでください。
- キャップユニット、中栓・コップを本体に取り付けたまますお手入れしないでください。それぞれ取り外した状態で行ってください。
- 長期間ご使用にならない場合は、汚れをきれいに洗い落とし完全に乾燥させてから清潔な場所で保管してください。
- アルカリ性洗剤またはオレンジオイル系の洗剤は図柄剝離、変色する場合がありますので、ご使用はお避けください。

### ポトル内側にサビのような赤い斑点や、ザラザラしたものが付着した場合には

- サビのような赤い斑点が出来た場合  
水分に含まれる鉄分などが付着したものです。食酢を10%程度入れたぬるま湯を本体に入れて、30分ほど放置した後、柔らかいスポンジブラシなどで、内びんの内壁をよく洗ってください。食酢のこらないうちにきれいな水でよくすすいでください。
- ザラザラしたものが付着した場合  
水に含まれるカルシウムが付着したものです。クエン酸を1~2%程度入れたぬるま湯を本体に入れて、キャップユニット、中栓、コップを取り付けず、3時間程放置した後、柔らかいスポンジブラシなどで、内びんの内壁をよく洗ってください。クエン酸が残らないようにきれいな水でよくすすいでください。

### こんなときは

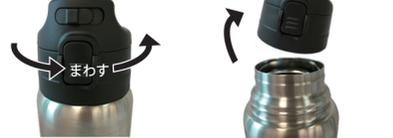
次の項目に対して点検を行ってください。

症状	点検箇所	対処方法
中栓が確実に閉まっていますか?	中栓が確実に閉まっていますか?	中栓を確実に閉めてください。
キャップユニットが確実に閉まっていますか?	キャップユニットが確実に閉まっていますか?	キャップユニットを確実に閉めてください。
飲み物を入りすぎていませんか?	飲み物を入りすぎていませんか?	飲み物の量を減らしてください。
バックキンが正しく取り付けられていますか?	バックキンが正しく取り付けられていますか?	それぞれ正しい位置に正しくバックキンを取り付けてください。
中栓の内側に少量の内容物が残っていませんか?	中栓の内側に少量の内容物が残っていませんか?	注ぎ終わったら本体を立てた状態で中栓の開閉レバーを閉めてください。注ぎ口を下に向けて残った飲み物を出してください。
十分に熱い(冷たい)飲み物を入れてますか?	十分に熱い(冷たい)飲み物を入れてますか?	熱い(冷たい)飲み物を入れてください。予熱(予冷)をするとう効果的です。
飲み物の量が少なすぎませんか?	飲み物の量が少なすぎませんか?	飲み物の量を増やしてください。
ポトル内側にサビのような赤い斑点やザラザラしたものが付着した場合。	サビのような赤い斑点が出来た場合。	水に含まれる鉄分などが付着したものです。食酢を10%程度入れたぬるま湯を本体に入れて約30分後によく洗ってください。
ザラザラしたものが付着した場合。	ザラザラしたものが付着した場合。	水に含まれるカルシウムが付着したものです。クエン酸を1~2%程度入れたぬるま湯を本体に入れて約3時間後によく洗ってください。

ご使用前に ●はじめてご使用になる際は、食器用洗剤でよく洗ってからご使用ください。●製品にガタつき、破損等はないか確認してからご使用ください。不具合があった場合は改造せずに、使用しないでください。

## キャップユニットのご使用方法

### 1. キャップユニットをはずす



### 2. 飲み物を入れる

- \*あらかじめ、本体に少量の冷水を入れ、1分程度置き、予冷してから入れ替えると保冷に効果的です。
- \*飲み物の量は、右写真 部までにしてください。
- 入れすぎるとキャップユニットを開いた時に中身があふれる場合があります。
- 入れすぎた場合は、少量の飲み物を減らしてから、キャップユニットを開けてください。



### 3. キャップユニットを閉める

- \*キャップユニットを矢印の方向にまわし、しっかりと閉めてください。



### 4. ふたを開けて飲み物を飲む

- ①本体を立てた状態でロックを左へずらす。
- ②フッシュボタンを押してふたを開け、ゆっくり傾けながら飲み物を飲んでください。



### 5. 飲み終わったら

- ①飲み終わったら、本体を立てた状態にロックする。
- ②ロックを右へずらして、ロックする。



## 中栓・コップのご使用方法

### 1. コップ・中栓をはずす

- \*傾けた状態、または顔など近づけた状態で中栓を開けないでください。
- (熱いものを入れた場合、内圧がかかり蒸気が吹き出すことがあります。)



### 2. 飲み物を入れる

- \*あらかじめ、本体に少量の熱湯(冷水)を入れ、1分程度置き、予熱(予冷)してから入れ替えると保温(保冷)に効果的です。
- \*飲み物の量は、右写真 部までにしてください。
- 入れすぎると中栓を開けた時に中身があふれる場合があります。
- 入れすぎた場合は、少量の飲み物を減らしてから、中栓を開けてください。



### 3. 中栓を閉める

- \*中栓を閉める際はバックキンが正しく取り付けられていることを確認してください。
- \*バッグなどに入れる場合は、漏れないことを確認した上で本体を縦置きにしてください。
- \*熱い飲み物を入れた直後は、数秒おいてから中栓を開けてください。
- \*圧抜きをする場合や中栓の開閉レバーが押しにくい場合は、やけどに十分注意して本体を必ず立てた状態で布(タオル等)をあてて、ゆっくりと開けてください。



### 4. 飲み物を注ぐ

- 開閉レバーを矢印の方向に引き上げてください。
- 開閉レバーがカチッと音がる位置までレバーが上れば注げる(飲める)状態です。



### 5. 注ぎ終わったら

- \*注ぎ(飲み)終わったら、必ず開閉レバーを上から軽く押し下げ、閉鎖してください。
- \*中栓内部に飲み物が残る場合があります。注ぎ終わったら、数秒間本体を立てた状態にしてからレバーを押し下げて閉鎖状態にしてください。
- 注ぎ口を下に向けて残った飲み物を出してください。



## バックキンの取り付け方

### ●フタバックキンの取り付け方

- 凹凸の位置を合わせて取り付けてください。



### ●キャップ本体バックキンの取り付け方

- キャップ本体バックキンのつまみ部分を上にキャップ本体にはめ込んでください。
- 指などで押し、溝にしっかりと押し込み、浮いてないことを確かめてください。
- バックキンが浮いていると水漏れすることがあります。



### ●中栓バックキンの取り付け方

- ①開閉レバーを引き上げる。
- ②バックキン装着の際はバックキンの上下に注意してください。また、均一に装着してください。
- ③バックキンの向きは下の写真の通りに取り付けてください。
- ④バックキンの向きを引っ掛かり押し込み、しっかりと押し込んでください。(腐敗・水漏れの原因となります。)
- ⑤バックキンの上下に注意してください。(水漏れの原因となります。)



- \*きつい場合があります。慎重に作業してください。

バックキンは正しく取り付けられていないと漏れの原因となります。お手入れなどで、フタバックキンやキャップ本体バックキン、中栓バックキンを取り外したあとは、正しく取り付けてください。

バックキンは消耗品です。ご使用後半年から1年を目安にご確認ください。